

住民と共に水の公共性を考える学習会を！

水道法「改正」による水道民営化問題で関心が高まり、住民が水道事業について考える学習会が、改正前から大小さまざまな形で開催されています。

自治労連公企評は、こうした学習会の共催や参加、講師派遣などを通じて地域住民とともに「安全・安心な水道を未来へつないでいくために何が必要か」を学び、考えていく取り組みを強めています。

水道事業は地域により課題や解決策も違います。

水道法は「改正」され民営化（＝コンセッション方式）は可能となりましたが、それを決めるのは地域住民です。

学習会の開催や資料などのご相談は、自治労連公企評・事務局長（近藤）へお問い合わせください。（掲載した開催は2018年1月～19年2月までのものです）

水道事業の将来を決めるのは住民です！



600人を超える参加・浜松

●「全国初」コンセッション導入を阻止するために 静岡県・浜松市●

1・13命の水を守る全国のつどいは全国初のコンセッション導入をねらう浜松市への関心の高さから、会場の定員600名を超える参加者が集まりました。

スピーカー・パネリストには水ジャーナリスト・橋本淳司さん、パルク・内田聖子さん、弁護士・尾林芳匡さんらが登壇し、コンセッションの問題点や海外での再公営化の動きなどを伝え、水の公共性を考える機会となりました。

2019/1/13 浜松市福祉交流センター

主催：1・13命の水を守る全国のつどい実行委員会

公企評は賛同団体として呼びかけ、86名（10地方組織21単組）が参加

会場に入らずモニターで見る参加者 



【近畿圏での学習会】

近畿圏では、大阪市、奈良市、大津市、和歌山市などで民営化＝コンセッション計画が進行しています。民営化推進勢力は市議会で否決されたため、広域化へ舵を切り市議会ではないところで民営化を進めるねらいが感じられます。

開催場所：滋賀県（大津市）、京都府（福知山市、京都市）、大阪府（大阪市、交野市、立命館大学）、奈良県（奈良市）

●京都北部の要となるべき事業体も包括委託へ 京都府・福知山市●

京都府北部・日本海側の地域では市町村合併による水道事業統合と国が進める簡易水道事業統合により経営悪化、人材が喪失しています。京都北部の要となるべき福知山市も包括委託へ踏み込む事態となり、直営力が失われていきます。

採用がなければ、委託しか選択肢がない



📅2018/9/1 福知山市三段池総合体育館 主催：福知山地労協

●民営化を否決され広域化へ舵を切る 奈良県・奈良市●

市議会で民営化計画が否決された奈良市で「水の110番シンポ・奈良」を開催。奈良県は奈良市を含む広域化計画を進めようとしています。広域化されれば奈良市民の声は届かず、民営化計画が再浮上するのではという危惧が広がっています。



**広域化されれば…
住民の気がつかないところで
民営化が決定される**

📅2018/11/3 奈良市・商工会議所 主催：近畿水問題合同研究所



水とくらしの110番シンポ



2018/1/13 立命館大学

竹山（堺）市長は「水道は公でグリップするべき」と発言

2018/12/3 第 回水とくらしの110番シンポジウム・大阪



●公営ガス事業へのコンセッション導入 滋賀県・大津市●

市民に安価で安定したガスを供給してきた大津市。ガス事業と水道事業の一部をコンセッションにすることが決まり、「次は水道が…」という危惧が広がっています。



2018/2/17 大津市旧大津公会堂 共催：近畿公企評・大津市民のガスを守る会

【東海圏での学習会】

東海圏では、浜松市以外に民営化の具体的計画はありませんが、名古屋の川村市長は関心を示し「勉強する」と言っています。長良川河口堰、徳山ダム、設楽ダム、川上ダムなどの過剰な水源開発に対抗してきた市民団体は、水道民営化へも関心をもち学習会を開催しています。

開催場所：静岡県（浜松市、箱根町）、愛知県（名古屋市、津島市、岩倉市、岡崎市）、三重県（津市、伊賀市）、岐阜県（岐阜市）

●自己水源を廃止しないで！ 三重県・伊賀市●

川上ダム（建設中）と三重県が広域水道として建設した浄水場を押し付けられた伊賀市。ダム水源の給水を拡大するために自己水源を廃止される住民は、昔から使ってきた良質な水源をまもるため運動を始めています。



全国最悪？の広域化失敗事例



2018/10/28 柘植地区市民センター 主催：伊賀市水と緑の会

NPO地域水道支援センター保屋野さん

●水道法「改正」は何をねらうのか 岐阜県・岐阜市●

長良川河口堰、徳山ダム連絡導水路計画は長良川の健全な水循環を破壊するもので、清流長良川をとりもどす活動をつづける団体が開催。年末にも関わらず 70 名を超える参加となりました。また、学習会と同時に「最後の一滴まで」を上映しました。



2018/12/22 岐阜市・ハートフルスクエアG主催：長良川市民学習会



●10数名のミニ学習会も行われています●

2018/3/24

名古屋市緑区大高地域
コミュニティセンター

呼びかけ：ママの会
「民営化して大丈夫？」
という素朴な疑問から」



拡散しつづける住民との共同



●アウトサイドインの手法で問題解決を●

大阪では衛星都市に 110 番シンポを横展開しています。滋賀県立大学名誉教授の仁蓮先生は基調講演で、水道の抱える問題を水道の中だけで解決しようとした結果、経費削減のための人員削減、業務委託、集中化（広域化）が進んでいる。これはインサイドアウトという手法であり、対処療法になり、根本的な問題解決にならない場合が多い。広域化はエネルギーの大量消費につながる問題点を持っている。省エネルギー、分散といった観点から考えるアウトサイドインの手法

法をもって検討すべきであると語りました。

2018/10/26 交野市立 青年の家 学びの館 共催 近畿水問題合同研究会/大阪自治労連公営企業評議会
📍「広域水道の受水を減らし貴重な自己水源（地下水）をまもっていく」飯田・交野水道労組委員長

広域化の「先進事例」として取り上げられる香川県でも

●広域化の次は民営化？を警戒して 香川県・丸亀市●

2018 年 4 月から全県の水道広域化を行なった香川県。「広域化されたことも知らない」という住民もいる中、同じように「知らないところで民営化が決められないように」と住民学習会を開催しました。

2019/1/27 香川県丸亀市生涯学習センター📍
主催：「香川の水道を考えるつどい」実行委員会



●欧州の水道で何が起きたのか？ 上映会を開催するなら…これ！●



映画「最後の一滴まで」ヨーロッパの隠された水戦争

日本語版監修：岸本聡子（トランスナショナル研究所〈TNI〉）

字幕：内田真木子

吹替版声優 イッキ／大谷理美／緒乃冬華／加藤健／亀岡孝洋／川原慶久／くわはら利晃／今野悠人／槌柴智康／三野友華子／森田樹優

編集：脇元寛之（株式会社 SGN）

企画・制作統括：内田聖子（PARC）

資料請求や上映に関することは

特定非営利活動法人 アジア太平洋資料センター（PARC）へお問い合わせください

<http://parc-jp.org/video/sakuhin/uptothelastdrop.html>

ヨーロッパでは、水メジャー企業のベオリア、スエズの本拠地であったフランスをはじめ各国で再公営化が起きている。再公営化はとても困難を伴うにも関わらず、その動きは加速している。それは水という公共財を住民のコントロール下に取り戻す動きである。この映画は「水が人権である」ということを考えるための学習会に最適な材料だ。（近藤夏樹）

希望はある！ 一世界の流れは再公営化へー

世界では水道事業だけでなく、さまざまな公共セクターが再公営化へ向かっています。※それは、新自由主義で失われた公共サービスを住民の手に取り戻す動きです。水道事業が生存権の保障であるなら、民営か？公営か？の2極の対立ではなく、働き方や暮らし、そして健全な水循環などまで話し合うことが必要です。水道法「改正」は、水の公共性を考える「絶好の機会」として捉え、水道事業の目的である公共福祉の増進へ立ち返ることを公企評は期待します。

※世界での再公営化を知るための最新資料が発表されています。

トランスナショナル研究所（TNI）『再公営化という選択：世界の民営化の失敗から学ぶ』

https://www.tni.org/en/RPS_JP より全文ダウンロード可能です。

世界の教訓は「民営化しないこと」です



日本では、まだひとつも水道民営化を行わせていません

☞ 1・13 浜松集会前のデモには様々な団体、グループ、個人、約200名が参加☞

水の自治を住民の手に

水はいのちです

水道法改正は水の公共性を
考える機会に！



作成：自治労連公営企業評議会

事務局：名古屋水道労働組合

名古屋市中区三の丸三丁目1-1

TEL052-971-3105